

一般講演・ポスター発表 P-11

ありがとう, ニホンイシガメ応援団 ～新しい寄付プログラムの結果報告～

若澤英明, 小河原孝恵 (認定NPO法人生態工房)

The reports of new donation systems for conservation of Japanese pond turtles

Hideaki WAKASAWA and Takae OGAWARA (NPO Eco-works)

固有種ニホンイシガメは生息環境の悪化, 外来種による影響などにより, 生息数が減少傾向にある。NPO法人生態工房(以下, 当会)では, 都立光が丘公園バードサンクチュアリ池および石神井公園三宝寺池にて外来生物の防除とともに在来種のモニタリング調査をしており, ニホンイシガメは両池で計20個体が確認されている。しかし, これはミシシippアカミミガメ, クサガメ, スッポンなどを含めたカメ類全体の約5%にしか満たず, 生息数は少ないといえる。当会では, 2012年より「ニホンイシガメ応援団」と銘打ち, 固有種ニホンイシガメの生息環境を保全する活動への支援寄付を目的とする, 新しい寄付プログラムを開始しており, 今回はその現況を報告する。

イシガメ応援団では, 寄付者はHPを参考に2つの池に生息するニホンイシガメ約20頭から1頭を「里子カメ」として選択する。当会に年間登録料として3,000円を寄付すると, 寄付者は選択した里子カメの里親として登録される。登録後, 里子カメの年齢, 甲長, 特徴などのプロフィールが記載された里親証明書が発行される。また里子カメの成長(生息)記録や, 捕獲時の個体変化, 捕獲状況等がわかるニュースレター「まごがめ便り」が年2回里親の元へ届く。なお, 「里親」「里子カメ」という名称を使用しているが, イシガメ応援団における「里親」とは一時飼育を行うのではなく, イシガメを家族の一員のように思いその成長(生息)を見守る存在という意味である。

これまでの結果として, 2012年度は14名義で51,000円の寄付があり, 2013年度では17名義で75,000円の寄付があった。また, 2012年度に入団して2013年度も継続した割合は85.7%(12/14)であり, 高い継続率があった。さらに企業やNPOなど個人のみならず幅広く寄付があったことに加え, 複数回の寄付を行う寄付者も存在した。

注目すべき点は, 寄付者が選んだ里子カメの生息確認の有無に関わらず継続している方が多いことである。元々保全活動に対して高い関心と理解を持っているだけでなく, 寄付者に届く「まごがめ便り」「里親証明書」を通じて保全活動に寄付者が貢献している意識が芽生えていると考えられる。

これからも生息環境を保全する活動への支援だけでなく, 日本の身近なカメの代表であったニホンイシガメを身近な存在として感じてもらうためのプログラムの1つとして, 引き続きニホンイシガメ応援団を進め, 当会が行なう自然環境の保全活動に対する支援を更に拡大させたい。